

医療提供対応状況について（介護施設）～詳細～

1. 施設名	特別養護老人ホーム シルバーサンホーム		
2. 住所	〒	803-0814	
	小倉北区大手町17-15		
	TEL	093-582-0100	
	FAX	093-583-5588	
3. 地区	小倉北区	大手町	
4. 入所相談対応者	非公開	①氏名	—
		①職種	—
		②氏名	—
		②職種	—
5. 施設種別	特別養護老人ホーム（地域密着型含む）		
	【補足】『その他』（詳細）	—	
6. 施設の居室 タイプ・ベッド数	従来型		
	【補足】『従来型』（詳細）	①個室	あり
		②ベッド数	3床
7. ショートステイ	あり	【補足】	—
8-1. 看護職員の 雇用状況	雇用している		
	①常勤	5人	
	②非常勤	6人	
8-2. 看護職員の 夜勤体制	公開	オンコールで対応	
		【補足】	
		①『オンコール対応』時間	18:30～07:00
	②『その他』（詳細）	—	
9. 施設の入所基準 ～介護度～	×	自立	⇒【補足】 — (年齢)
	×	要支援1	
	×	要支援2	
	○	要介護1	
	○	要介護2	
	○	要介護3	
	○	要介護4	
	○	要介護5	



当掲載内容は2022年2月に実施した調査回答を基にしています。
最新の実態は、当該施設へご確認ください。

1. 施設名	特別養護老人ホーム シルバーサンホーム		
10-1. 施設の入所基準 ～若年性認知症～	公開	若年性認知症患者の受入に係る相談対応の可否 ○	
10-2. 施設の入所基準 ～その他～	公開	受入の可否	
		○	生活保護
		×	身元保証人がいない
10-3. 施設の入所基準 ～医療対応状況～	対応可能な項目について A B ※A…入所時、B…ショートステイ時		
	○	○	経管栄養（胃瘻・腸瘻）
	×	×	経管栄養（経鼻）
	×	×	CVポート
	×	×	中心静脈栄養
	○	×	血糖・インスリン注射
	×	×	点滴静脈輸液
	○	○	褥瘡処置
	○	○	膀胱留置カテーテル
	×	×	膀胱瘻
	○	○	導尿（自己のみ）
	×	×	気管切開
	×	×	人工呼吸器
	×	○	酸素吸入
	×	×	腎瘻
	○	○	浣腸・摘便
	○	○	ストーマ（消化器・尿路）
	×	×	血液透析
	×	×	腹膜透析
	○	○	感染症（MRSA・疥癬他）
	×	×	神経難病
	○	○	喀痰吸引
	—	○	喀痰吸引（夜間）
	—	○	喀痰吸引（昼間）
	○	△	終末期
	—	○	麻薬を用いた疼痛管理
	—	○	施設にて看取り（10-4.実績数）
	—	○	状態悪化時、病院搬送



当掲載内容は2022年2月に実施した調査回答を基にしています。
最新の対応状況は、当該施設へご確認ください。

1. 施設名	特別養護老人ホーム シルバーサンホーム			
10-4. 施設の入所基準 (看取り実績)	公開	昨年度(2020年4月1日～2021年3月31日)の看取り実績数 9 件		
11. 手話及び 外国語対応	対応職員の有無など			
	手話	いない	【補足】『いる』(詳細)	
			①職種: — ②人数: —	
	英語	いる	【補足】『いる』(詳細)	
			①職種: 理事長 ②人数: 1人	
	その他 対応可能 言語	いる	【補足】『いる』(詳細)	
①種類: フランス語 ②人数: 理事長 1人				
12. 食 事	対応の可否など			
	食形態	×	ソフト	
		×	ミキサー	
		×	とろみ	
		○	ムース	
		○	きざみ	
	治療食	×	分割食	
		×	肝臓食	
		○	腎臓食	
		○	糖尿病 ⇒【補足】(詳細) 個別対応	
		○	塩分制限 ⇒【補足】(詳細) 個別対応	
	—	○	アレルギー除去食	
		○	嗜好による個別対応	
13. リハビリ対応	公開	リハ加算	算定している	
		リハビリ 職員数	P T	2人
			O T	1人
			S T	—
14. 入浴(浴槽)	○	個 浴		
	○	機械浴 ⇒【補足】	車いす ×	
			ストレッチャー ○	
			リフト ×	



当掲載内容は2022年2月に実施した調査回答を基にしています。
最新の対応状況は、当該施設へご確認ください。

1. 施設名	特別養護老人ホーム シルバーサンホーム	
15. 透析患者の 受診送迎	公開	対応していない 【補足】 — に対応 —
16. その他		公開
17. 施設の特徴	<p>【食事について】</p> <p>※嗜好による個別対応は、代謝が可能なもの看取り期に限り対応している。 シルバーサンホームは、早い時期から看取り介護や胃ろうの方の積極的な受け入れにより高齢者の重度化に対応しています。 歯科衛生士による専門的口腔ケアを行い、口腔機能の向上と誤嚥性肺炎予防、離床介助による褥そう予防や改善、ムース食をはじめとするとご利用者一人一人に適した食事形態による楽しみと経口維持、看介護職員と専門職が一体となってご利用者の生活の質の向上に努めています。</p>	



当掲載内容は2022年2月に実施した調査回答を基にしています。
最新の対応状況は、当該施設へご確認ください。